

●21世紀の教育に求められる「社会的な見方・考え方」

- ・著者：監修・編者 江口勇治
井田仁康・唐木清志・國分麻里・村井大介編
- ・発行：帝国書院／2018年 3月
- ・価格：本体 2500 円＋税
- ・判型：A5判, 304 頁
- ・ISBN：ISBN978-4-8071-6369-4



【内容紹介】

平成 29 年および 30 年に告示された学習指導要領では、資質・能力が小学校から高等学校を通して重視されることになった。特に「思考力」が強調され、「見方・考え方」が「思考力」のキーワードとなり、「思考力」の観点が見られることになった。社会科（地理歴史科・公民科を含む）では、「社会的な見方・考え方」が社会科を包括する見方・考え方となり、小学校では「社会的事象の見方・考え方」、中学校社会科地理的分野および高等学校地理歴史科地理では「社会事象の地理的な見方・考え方」、中学校社会科歴史的分野および高等学校地理歴史科歴史（日本史、世界史含む）では「社会事象の歴史的な見方・考え方」、中学校公民的分野では「現代社会の見方・考え方」、高等学校公民科では「人間と社会の在り方についての見方・考え方」と記される。本書は、学習指導要領の改訂に長くかかわってきた江口勇治氏の停年退職にあわせ、それぞれの執筆者の社会科の専門領域における「見方・考え方」を論じたものである。

本書は 4 章から構成されている。第 1 章は、初等社会科における「社会的事象の見方・考え方」についての 7 つの論稿から構成され、第 2 章は「地理的な見方・考え方」に関する 6 つの論稿から成っている。第 3 章は「歴史的な見方・考え方」についての 6 つの論稿、そして第 4 章は「現代社会の見方・考え方」についての 8 つの論稿から構成されている。換言すれば、小学校社会科、中等教育（中学校・高等学校）での地理、歴史、公民という 4 つのカテゴリーに分けて論じられているのである。著者は、江口氏とゆかりのある（指導した）社会科教育研究者および教育実践者である。若手研究者、実践者も多く含まれ、様々な観点から「社会的な見方・考え方」にせまっている。

「社会的な見方・考え方」の捉え方は多義的である。学習指導要領においても、地理的な見方・考え方は事象を見る「観点」としているのに対し、歴史的な見方・考え方は「分析の方法」、そして公民では「理論や概念」として見方・考え方を捉えている。本書では、そうした多義的な「社会的な見方・考え方」をそれぞれの多義性の中で捉え、結果的に「社会的な見方・考え方」は有効性と困難性をあわせもつ概念であることを示した。そして、社会的な見方・考え方を通して、新しい時代の社会科・地理・歴史・公民の指針を示せたと自負している。

【出版社の書籍紹介ページ】

<http://> <https://www.teikokushoin.co.jp/products/general/index.html>

【編著者紹介】

江口勇治：筑波大学名誉教授 社会科教育学・公民教育

井田仁康：筑波大学人間系教授 社会科教育学・地理教育

唐木清志：筑波大学人間系教授 社会科教育学・公民教育

國分麻里：筑波大学人間系准教授 社会科教育学・歴史教育

村井大介：静岡大学講師 社会科教育学・公民教育